

電波ジャック

JJ1SXA 池

以下に引用したような文章が、どこかに掲載されていましたが、派手なハイジャックのみならず、我々に関係ある電波による、電波ジャックも大犯罪ですね。

これほど大きな問題では無くても、アマチュア無線においても、故意に混信や妨害を与えたり等はとんでもない事、そうで無くても、受信機やアンテナの整備不良或いはワッチ不足等で、混信や妨害を与えたりすることの無いよう万全を期したいものですね。

一般的に、法律違反が、故意による場合は、犯罪であるというのは、常識としても、過失によっても犯罪は成立するわけで、過失の度合いが少ない場合にのみ立件されないだけです。

犯罪という事になれば、刑事罰のみならず、民事事件として金銭問題が派生します、時には莫大な金額になることもあります。

何事に対しても甘く見る事無く、ついうっかりにも気をつけるようにしたいものです。

ー以下引用ー

電波ジャックというのは、飛行機と管制塔のやり取りや、列車の運行連絡用通信、警察の通信を傍受したり、通信内容に侵入して混乱させる事などの犯罪行為の総称で、盗聴も一種の電波ジャックだそうです。

また、**1987年4月5日**にNHKの大河ドラマ「独眼流正宗」の放送中に約**4分半**画面が乱れ、女性の声 flowed 流れたようです。

当時の報道によれば過激派による電波ジャックであると言われていました。

しかし、それに似た事故はそれ以前にも、**1986年2月7日**に日本テレビの「お昼のワイドショー」終了後**49分間**にわたり画面が乱れたことがあったそうです。

この時の報道では、東京タワーの局部発信器が故障したのが原因であったことになっています。

また、その後には、**1988年9月20日**に、当時のゴールデン・カードであった野球の「中日－巨人戦」を放映中の関西テレビが**48分間**にわたって映像が中断したそうです。

この時は、送信所の冷却ファンの故障が原因であったと報道されました。

1989年3月18日にはフジテレビで映画「ダーティハリー3」を放送中に映像と音声約**25分間**中断しています。

この時は、コンピュータの故障が原因であったと報道されました。

1989年3月27日には**TBS**「ニューススコープ」で映像と音声**10分間**中断しています。

1989年6月17日には、再びフジテレビで、若者向けの番組で「とんねるず」が司会をし、毎回**20%**以上の視聴率をマークしていた、当時の人気番組「ねるとん紅鯨団」が後半に入った午後**11時17分頃**、突然画面が乱れ、**30秒後**に一時元に戻ったが、再び中断して、その後音楽番組に画面を切り替え、お詫びのテロップを流したが、約**8分後**の午後**11時25分**に回復したようです。

この放送は関西テレビ制作で、全国に番組が配信されていたため、放送を送る自動番組送出装置などのコンピュータの故障ではないかと報道され、事故原因は調査中という放送局側のコメントがあっただけで、その後、原因の正確な報道はされていません。

フジテレビへの抗議の電話が約**30分間**に**100本**以上が殺到し、電話回線がパンク状態になったらしいです。

その後も抗議や問い合わせの電話が続き、約**670本**の電話があったそうです。

当時の放送評論家は「テレビ各局が**24時間**体制になり、機械、コンピュータのメンテナンスが遅れ気味で、コンピュータにばかり頼っている高度機械化社会のひずみから発生した」と言っているが、コンピュータやネットワークに詳しい人なら、システムのセキュリティ・ホールからのクラッカーの侵入は無かったかどうか、脅迫はどうかなどを調査するのであるが、残念ながら当時ではそのような事を発言する人は少なく、うやむやのままになっているようです。

ただし、**1987年**から**2年間**で突然多くの事故が起こり、その中の一つは電波ジャックであったことが報道され、その後びたりとそのような事故がなくなったことから、**NHK**の大河ドラマ「独眼流正宗」以外は単純な事故であったと言いきれないという事ようです。

テレビ局にとって、放送が中断されることはあってはならないことで、特に民放の場合は**1分間**で何千万円もの金額が動くことから、放映されなかったことは、コマーシャルも流れず、スポンサーへの謝罪と、コマーシャルに対する賠償金など、甚大な損害が発生していた筈です。